

令和3年度 生活・自立支援キャンプ 「曾爾わくわくキャンプ」

1. ねらい

豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

7月30日（金）～7月31日（土） 1泊2日

3. 対象者（参加施設）

みどり自由学園（三重県）

4. 参加者

10人（小学生7人 中学生3人）

5. プログラム（要約）

本事業では、津市の児童養護施設に入所する児童・生徒を対象に、自然の家周辺の自然環境を活かし、亀山登山や森遊び、野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、普段生活している施設とは異なる環境の中での集団活動を通じて、規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。

事業全体を通しては、コミュニケーションの充実を図るとともに、達成感や自己肯定感を養うプログラム構成とした。

スケジュール

7月30日（金）

- ・開会式
- ・選択プログラム（森遊び、亀山ハイキング）
- ・わくわくタイム
（ナイトハイク、バドミントン、
卓球、ドッジボール）

7月31日（土）

- ・野外炊事
- ・ふりかえり
- ・閉会式

【1日目】

開会式後、屋外での活動を実施した。子どもたちは山登りと森遊びを各自で選択し、それぞれの活動に挑戦した。

亀山登山を選択した子どもたちは、亀山山頂に到着した後、緑の曾爾高原や、曾爾の山並みなど雄大な景色を目の当たりにし、達成感を得て、感嘆の声を上げていた。

森遊びを選択した子どもたちは、森の中で杉葉や枝を拾って火の中に投げ入れたり、スラックラインをし

たり、木のコースターを作ったりして、楽しんで活動していた。また、ファイアスターターを使って火おこしをしていた子どもたちは、なかなか火がつかずに苦戦しながらも、何とか着火に成功し、自分一人で火をつけられたことに自信を深めた様子だった。



夜は、「わくわくタイム」としてナイトハイクやプレイホールでのレクリエーションを実施した。ナイトハイクでは夜風に当たったり、虫の声を聞いたりして穏やかに時間を過ごすことができた。その後のレクリエーションは、プレイホールで自然の家の職員やボランティア、施設の職員を含む全員でドッジボールやバドミントン、卓球などを行った。



【2日目】

野外炊事で焼きそば作りをした。班で役割を分担し、薪割りをしたり野菜を切ったりするなど、みんなで協力しながら調理をした。スムーズに調理から片付けまでが終了し、すべてのプログラムを予定通りに終えることができた。



6. まとめ

コロナ禍で、さまざまな活動が制限される中、「子どもたちに多くの体験をさせたい！」という施設の方の思いと、子どもたちの「やってみたい！」という思いを大切にしながら活動を進めた。参加者は、時間など約束を守りながら、普段なかなかできない火や山登りなどの体験活動に、元気いっぱい取り組むことができた。

事業の中で、施設の方から「去年は落ち着きのなかった児童が、落ち着いて話を聞き、できなかったことができるようになっていた」「一人一人の成長した姿が見られてうれしかった」といった感想を聞くことができた。

（企画指導専門職 福島 茂樹）

令和3年度 生活・自立支援キャンプ
「そに どきどきキャンプ」

1. ねらい

豊かな自然の中での様々な体験を通して、健やかな心と体を育成し、自立する力を身に付けることをめざす。

2. 実施日

10月16日(土)～10月17日(日)

3. 対象者(参加施設)

羽曳野荘(大阪府)

4. 参加者 / 募集定員

17名 / 30名

[幼児4人 小学生13人]

5. プログラム(要約)

本事業は、大阪府の児童養護施設に入所する幼児・児童を対象に実施した。高原のすすきが見頃を迎える中、森遊びや焚火体験、高原散策など、様々な自然体験活動を通して、健やかな心と体を育成し、自立する力を身に付けることをめざしたプログラム構成にした。

6. スケジュール

10月16日(土)

- ・開会式
- ・焚火体験
- ・亀山登山
- ・森遊び
- ・野外炊事(ちゃんこ鍋)
- ・選択プログラム
(ナイトウォーク 焚火)

10月17日(日)

- ・朝のつどい
- ・森遊び
- ・野外炊事(カレーライス)
- ・閉会式

7. 活動内容

[10月16日(土)]

開会式後、焚火体験や亀山登山、森遊びを行った。特に焚火体験では、焚火する際のポイントやルールを集中して聞いた後、熱心に取り組み「薪割り、薪組、着火」、この一連の活動に没頭していた。活動後は野外炊事を行った。声を掛け合いながらちゃんこ鍋の調理に取り組んでいた。夕食後は選択プログラムとしてナイトウォークと焚火をおこなった。



[10月17日(日)]

朝食後森遊びを行った。秋探しや焚火等「自分がやってみたい」と思う活動に取り組んだ。活動後は野外炊事を行った。昨日野外炊事に取り組んだ経験を基に難易度の高いカレーライス作りに協力して取り組んだ。最後に閉会式を行い2日間のキャンプの幕を閉めた。



8. まとめ

「自分がやってみたいことを思いっきりやってみる」そんな時間と場所を提供したいと思い、本事業を企画した。開会式では緊張していた子どもたち。プログラムがスタートすると、自分がしたいことを思いっきりできることに気付き笑顔を見せるようになってきた。施設の職員の方々からは「森の中で伸び伸びと行動できていた」や「自分のことは自分でする。自分がしたいことは自分で決めてする。主体的に行動したいと思える仕掛けがキャンプの中にたくさんあり、よかった」という感想等があった。

子どもたちは、自然の中で主体的に伸び伸びと活動することができていた。普段なかなかできない体験をたくさんすることができ、満足気な様子であった。今後も子どもたちが主体的に活動できる場を提供していきたい。(企画指導専門職 森本 貴仁)